

大村高校 SSH

第Ⅱ期がスタートしました！！

大村高校は、平成30年度から令和4年度の5年間文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール事業の指定校に採択され、研究開発課題「教科横断型探究プログラムと評価指導法（大村 SCAN プログラム）の開発」に取り組んできました。令和5年度からは、新たに研究開発課題「教科横断型課題探究プログラムと評価・指導法の **SHINKA** による科学技術人材育成方法の開発」に取り組んでいきます。文部科学省を始め多くの国の機関では、昨今、探究活動や STEAM 教育の推進の重要性が叫ばれており、本校の SSH 第Ⅱ期の事業でもそれらを取り入れたプログラムを開発していく予定です。SSH と聞くと理系の人だけが関係するものと考えている人もいるかもしれませんが、**本校では第Ⅰ期から、学科や理系・文系の違いに関係なく、全生徒・全職員で探究活動に取り組んできました。第Ⅱ期でも全校体制での探究活動は、継続して行きます**ので、これから高校に入学する人は、是非、大村高校と一緒に探究活動をやってみませんか？

大村高校の探究活動の特徴は「**まず、体験してみる！**」です。まず探究活動をやってみて、試行錯誤しながら上手いかわからないときは、必要なスキルはその都度、学んでいくというスタイルでやっています。探究活動を楽しみながら、みんなで

“**Super Smile Happy**” な3年間を過ごしていきましょう！！

大村高校第Ⅱ期 SSH 事業のキャッチフレーズが決まりました！！

『**最先端の学びを日本の西端から創造する。**』

学びの **SHINKA** がここから始まる。』

校舎に新しい垂れ幕も設置しましたので、
来校時に見てください！！



第Ⅱ期の詳しい内容については、この後の記事に掲載しています。





研究開発題目

『教科横断型課題探究プログラムと評価・指導法のSHINKAIによる科学技術人材育成方法の開発』

※SHINKAIには、① 芯化…SSH事業を本校の探究活動の芯（軸）に据える ② 進化…第Ⅰ期の内容を更に進化させる
③ 深化…第Ⅰ期の内容を更に深化させる ④ 真化…第Ⅰ期の内容に真の価値をもたせる
の4つの意味を込めている。

研究開発の土台となる仮説

研究開発の【仮説1】

自然・地域＋「社会課題」を多元的に探究

学校設定科目
「サイエンス基礎」
「OMURA STEAM LABO」
の開発

情報分析力育成プログラムの開発

科学的探究力・科学への興味関心 向上

研究開発の【仮説2】

「多様」な他者との協働探究

大村高校探究活動コンソーシアムの構築

県内SSH校＋県外SSH校・海外校
との連携プログラムの開発

科学的探究力・協働実践力 向上

研究開発の【仮説3】

「真正の評価」の継続的改善・検証

・アンケート
・ポートフォリオ評価
・パフォーマンス評価
による「真正の評価」の開発

カリキュラム・マネジメントの開発

生徒のメタ認知力・教員の指導力 向上

育成を目指す人間像

高度な科学的思考力と豊かな発想力を持ち、新たな解の創発に向けて行動する人間

未来を切り開くために大村高校が育成する10の力

科学的探究力

協働実践力

メタ認知力

新 課題発見力

情報収集力

新 情報分析力

創発力

自己評価力

論理的思考力

プレゼンテーション力

新 創造的解決力

社会参画力

自己変容力

真化

【研究開発推進上の要点】

誰一人取り残さない
「全職員での指導」で、
「地域・他校等との協働」で、
ボリュームゾーンの生徒への
アプローチに加え、生徒の
プルアップ、ボトムアップ
にも適切なサポートを実践

大村高校 SSH事業 課題探究

芯化

第Ⅰ期

第Ⅱ期 進化

深化

拡充・発展

1年
・サイエンス基礎（文理探究科：1単位）
対象：1期1クラス→2期2クラス
・探究プラットフォームⅠ
（全学科：1単位）

2年
・探究プラットフォームⅡA/ⅡB/ⅡC
（文理探究科・普通科：2単位）
（家政科：1単位）

3年
・探究プラットフォームⅡA/ⅡB/ⅡC
（全学科：1単位）

事業内容

・各事業とルーブリックの評価指標
の関連についての分析強化
・HPへの教材・事業実施要領等
の掲載による探究活動の普及
・県内SSH校等との連携事業
Science Colloquium for All Nagasaki
未来デザインイノベーションフェア

新規

1年
・パフォーマンス評価
（文理探究科「サイエンス基礎」で実施）
・学校設定科目（文理探究科：1単位）
「OMURA STEAM LABO」
・ネクストジェネレーション・
ミーティング（文理探究科）
【東京学芸大学附属国際中等教育学校
・筑波大学附属駒場高等学校との共同研修】
・留学生交流研修（文理探究科）
・探究プラットフォームⅠにおける
大高探究ビルディング（全学科）
情報分析力育成講座（全学科）

2年
・留学生交流研修（文理探究科）
・台湾研修（文理探究科）

2・3年
・広大附属高校との連携（文理探究科）
・大村高校探究活動コンソーシアム
（全学科）

行政機関等
・長崎県教育委員会
・大村市役所
・西海みずき信用組合

地域
同窓会
地元小・中学校

大学・研究機関等
・長崎大学
・長崎県立大学
・工業技術センター
・環境保健研究センター
・学びのイノベーション・
プラットフォーム等

連携協定締結機関
・鎮西学院大学
・長崎総合科学大学
・活水女子大学

県内文理探究科
連絡協議会
・長崎北陽高等学校
・島原高等学校
・佐世保南高等学校
・猶興館高等学校

海外の高校・大学
・大直高級中学
（台湾）
・Temple University,
Japan Campus
（アメリカ）

県外SSH協力校
・広島大学附属高校
・東京学芸大学附属
国際中等教育学校
・筑波大学附属駒場
高校

県内SSH校
・長崎西高等学校
・長崎南高等学校
県内www校
・長崎東高等学校

今回の計画と既実施の計画との関係が分かる資料【長崎県立大村高等学校】

☆：第Ⅱ期で研究開発を行う新規プログラム
本資料においてPFは“プラットフォーム”の略表記

第Ⅰ期

学校設定科目「科学基礎」	数理探究科 1年1クラス（1単位）
・物・化・生・地の枠を超えた領域横断的で多角的な見方や1つの領域での手法を積極的に他の領域に適用する能力を育成する科目	

新規内容含む
発展的継続

第Ⅱ期

学校設定科目「サイエンス基礎」	文理探究科 1年2クラス（1単位）
・評価方法に☆パフォーマンス評価を追加、新教材の開発 ・実施対象クラスを1クラス→2クラスに拡大	

☆新規 総合的な探究の時間の代替

学校設定科目「OMURA STEAM LABO」	文理探究科 1年2クラス（1単位）
・社会課題を科学的な切り口で多角的に分析する手法を学ぶ科目	

☆新規 3日間の研修プログラム

「ネクスジェネレーション・ミーティング」	文理探究科 1年2クラス
・建造物（軍艦島）をテーマに東京学芸大学附属国際中等教育学校、筑波大学附属駒場高等学校と共同で研修・協議を行うプログラム	

学校設定科目「SS探究Ⅰ」	全学科 1年生（1単位）
・個人リサーチ、外部連携講座、批判的思考力養成講座、ミニ課題探究	

新規内容含む
発展的継続

学校設定科目「探究PFⅠ」	全学科 1年生（1単位）
・外部連携講座、批判的思考力養成講座、ミニ課題探究 ☆大高探究ビルディング、☆情報分析力育成講座、☆研究倫理講座	

学校設定科目「SS探究ⅡA」	数理探究科 2年生（2単位） 3年生（1単位）
・課題探究、中間発表会、英語プレゼンテーション、海外研修での発表	

新規内容含む
発展的継続

学校設定科目「探究PFⅡA」	文理探究科 2年生（2単位） 3年生（1単位）
・課題探究、中間発表会、英語プレゼンテーション、海外研修での発表	

学校設定科目「SS探究ⅡB」	普通科 2年生（2単位） 3年生（1単位）
・課題探究、探究力向上講座、中間発表会、課題探究発表会	

新規内容含む
発展的継続

学校設定科目「探究PFⅡB」	普通科 2年生（2単位） 3年生（1単位）
・課題探究、探究力向上講座、中間発表会、課題探究発表会 ☆広島大学附属高校との連携 ☆大村高校探究活動コンソーシアムの構築（ⅡA・ⅡCでも活用）	

学校設定科目「SS探究ⅡC」	家政科 2年生（1単位） 3年生（1単位）
・外部連携セミナー（7講座）	

新規内容含む
発展的継続

学校設定科目「探究PFⅡC」	家政科 2年生（1単位） 3年生（1単位）
・外部連携セミナー（7講座→11講座）に拡充	

国際性を高める取組・海外交流	数理探究科 2年生
・科学英語プレゼンテーション研修、アメリカ研修（Green Valley High School 交流）	

新規内容含む
発展的継続

国際性を高める取組・海外交流	文理探究科 2年生
・科学英語プレゼンテーション研修 ☆台湾研修（大直高級中学 交流）、Temple University, Japan Campus 交流 ☆留学生交流研修 ・海外研修対象クラスを1クラス→2クラスに拡大	